原子力防災パンフレット

万が一に備えて

保存版

若狭町

はじめに

この冊子は、万が一にも原子力発電所で事故が起こり、放射性物質が大量に放出、あるいはそのおそれがあるときに、避難時期や方法、避難先など、町民の皆さんにご理解いただきたい内容をまとめたものです。

原子力災害時において重要なことは、一人ひとりが正しい情報を入手し、それを理解し、落ち着いて対応することです。この冊子をお読みいただき、原子力防災に対する理解を深めていただきますようお願いします。

目　次

はじめに …… 2

原子力災害とは …… 3

情報伝達 …… 4

原子力災害対策重点区域 …… 5

屋内退避 …… 6

避難指示 …… 7

安定ヨウ素剤の配布 …… 8

放射線の基礎知識 …… 9～10

避難マップ　避難ルートと避難施設（県内・県外）…… 11

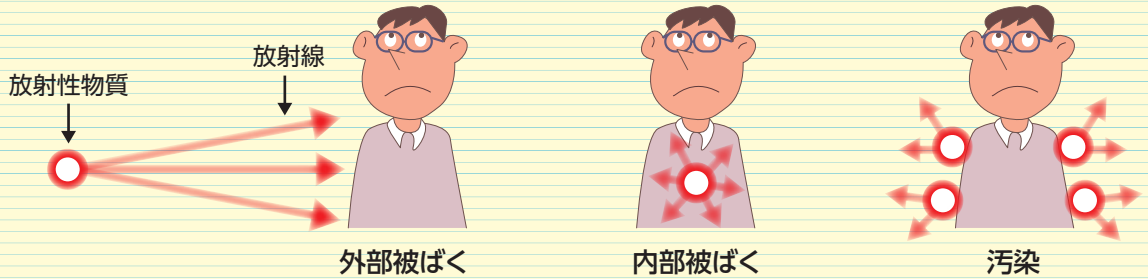
原子力災害とは

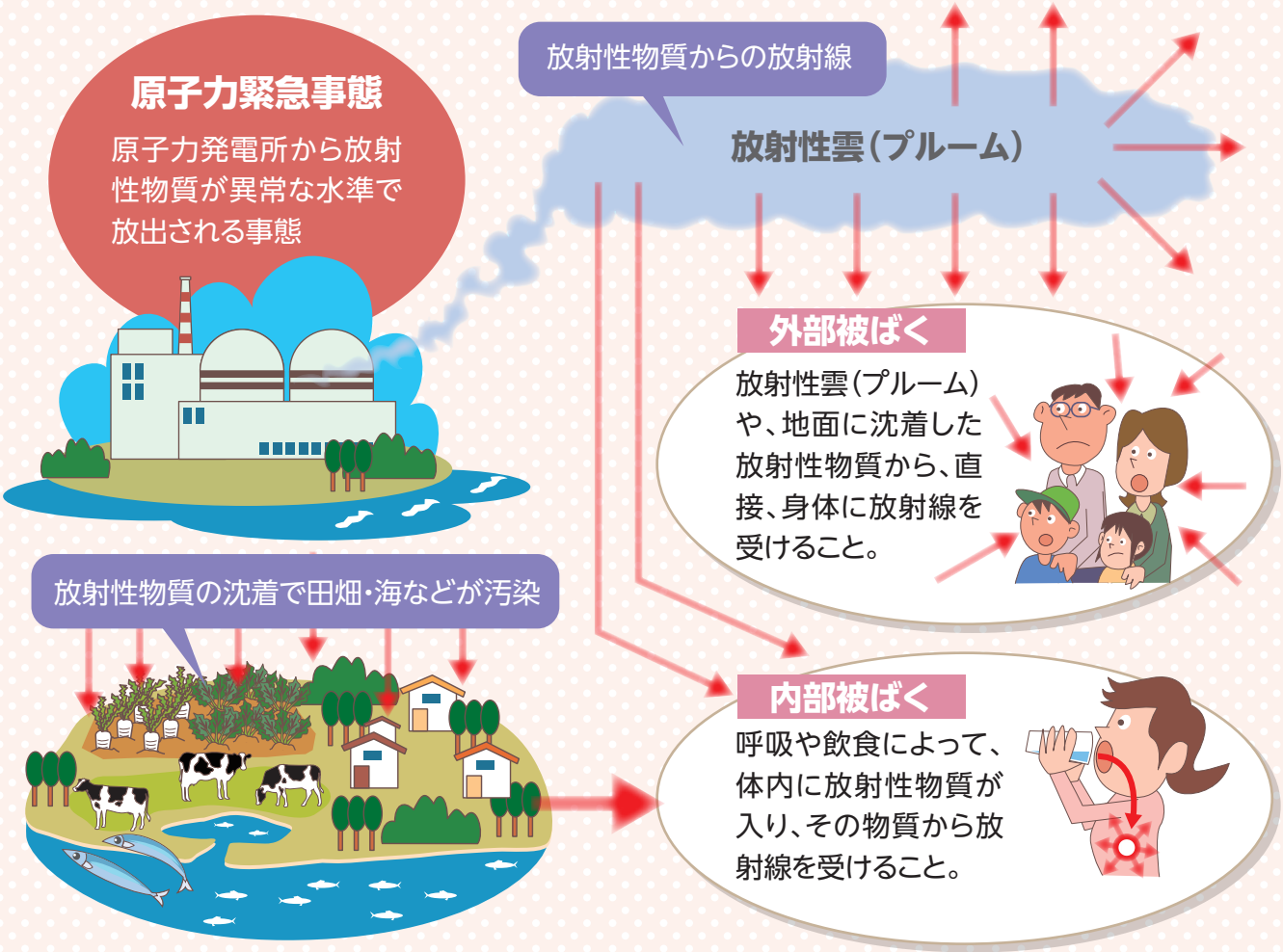
原子力発電所では、異常があった場合は運転を止める、燃料を冷やす、放射性物質を閉じ込めるといった安全対策がとられています。しかし、これらが機能しない場合は、放射性物質が周辺環境に放出されることで周辺の人々や環境に影響を及ぼす被害が発生します。

原子力災害は他の一般災害と異なる特殊性があります。放射性物質や放射線は、人間の五感で感じることができないため、原子力災害時にどのように行動すればよいかを個人で判断できません。このため国や県、町などから発表された正確な情報や指示に基づいて冷静に行動する必要があります。

被ばくと汚染

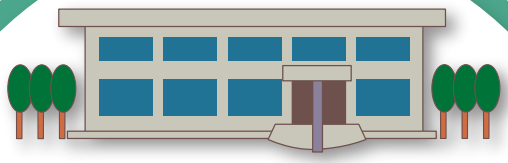
放射線を受けることを「被ばく」といい、「外部被ばく」と「内部被ばく」があります。
また、放射性物質が皮膚や衣服に付着することを「汚染」といいます。





情報伝達

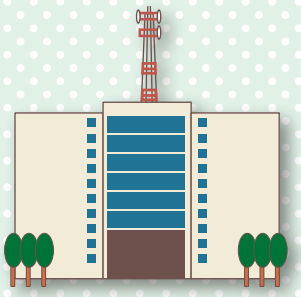
原子力災害が発生した場合には、原子力事業者から国、県、町などに連絡があります。連絡を受けた機関は原子力防災センターに参集し、情報共有や状況に応じた防護対策を検討・決定します。決定した内容は若狭町原子力災害対策本部などから住民の皆様に伝達します。指示に従って行動することが大切です。



原子力防災センター
（原子力災害合同対策協議会）

原子力災害時には原子力防災センターに、国、県、町や自衛隊、消防等の防災機関、原子力事業者が参集し、原子力災害合同対策協議会を組織して情報を共有しながら連携した災害対策を講じます。

若狭町原子力災害対策本部
（若狭町役場）



福井県原子力災害対策本部
（福井県庁）

国の原子力災害対策本部
（内閣府）

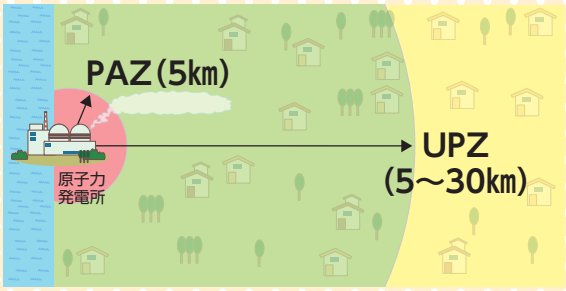
原子力災害が発生した場合には、町の原子力災害対策本部から、あらゆる広報手段を使って、必要な情報を速やかにお知らせします。

- 音声告知放送
- ケーブルテレビ（行政チャンネル）
- 広報車
- 緊急速報メール（携帯電話）
- テレビ
- ラジオ
- ホームページ など

原子力災害対策重点区域

原子力防災資機材や環境モニタリング設備、通信連絡設備の整備、避難対策の確立などを重点的に実施すべき区域を定めています。

原子力発電所から、半径おおむね5kmを「予防的防護措置を準備する区域（PAZ）」とし、半径おおむね5km～30kmを「緊急時防護措置を準備する区域（UPZ）」と設定しています。



若狭町にはPAZに該当する区域はなく、UPZ区域は次のとおりです。

発　電　所　名	UPZ区域（発電所から半径おおむね5～30km圏）
●日本原子力発電（株）敦賀発電所 ●日本原子力研究開発機構 高速増殖原型炉もんじゅ	三十三地区 三方地区 西田地区 鳥羽地区
●関西電力（株）美浜発電所	若狭町全域
●関西電力（株）大飯発電所	若狭町全域
●関西電力（株）高浜発電所	西田地区の沿岸部 （世久見、食見、塩坂越、遊子、小川、神子、常神） 三宅地区・野木地区

原子力発電所の緊急事態を3段階に区分し、事故の状況に応じて住民の防護措置（屋内退避や避難）を判断します。
（なお、PAZ区域がある市町は、予防的な避難などの措置がとられます。）

自宅以外にいるときに屋内退避となった場合

保育園、学校では、子供の安全を確保し、速やかに保護者に引き渡すための連絡をします。保護者との連絡が取れない場合は、教職員の責任のもとで一時的に保育園、学校で屋内退避します。

職場にいる場合には、職場の指示に従いましょう。

病院や社会福祉施設では、そのまま病院、社会福祉施設で屋内退避してください。避難が必要な場合は、あらかじめ定められた避難計画に従って受け入れ先へ避難します。

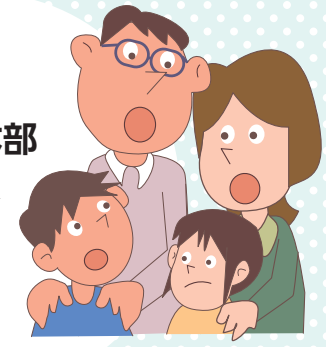
屋内退避

屋内退避とは、原子力災害が発生した場合、発電所から放出される放射性物質からの被ばくを避けるために、まず最初に行う行動です。

屋内退避の指示が出た場合は、屋外にいる人は自宅や職場、最寄りの公共施設等、近くの建物の中に入ってください。建物の壁などで放射性物質や放射線を遮ることで、影響を少なくすることができます。

下記のとおり、冷静に行動してください。

●**若狭町原子力災害対策本部などからの情報に注意し、指示があるまで外出は控えてください。**



●**外気が入ってくるのを防いでください。**
ドアや窓を閉める

●**外から帰って来た人はうがいをし、顔や手をよく洗ってください。**
特に指示があった場合は、外で着ていた衣服を着替え、ビニール袋に保管し、他の衣服と区別してください

●**屋内にあったものは飲んだり食べたりしても構いません。**
食品には、フタやラップをかけて冷蔵庫に入れてください

●**緊急を要する電話以外は使用を控えてください。**

一時移転、避難の指示が出た場合は、次ページのとおり行動してください。

避難指示

町では、県内の原子力発電所で災害が発生したとき、確実に避難できるように県内避難先、県外避難先を確保しています。

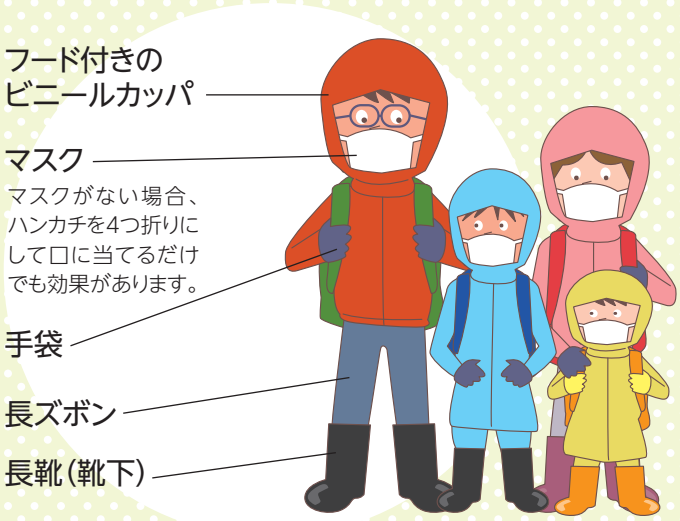
- **避難指示が出される場合には、避難方法と避難先をお知らせしますので、交通規制、誘導する警察などの指示に従い、自家用車で避難してください。**
- **自家用車での避難が難しい方は、徒歩などで町がお知らせする一時集合施設へ移動し、町・県が用意するバスで避難していただきます。**
- **避難先へ向かう途中のスクリーニング場所では、放射性物質が衣服などに付着していないか調べます。付着が認められた場合は、除染を行います。**
- **放射性ヨウ素の吸入や摂取による影響（甲状腺被ばく）を低減させるために、安定ヨウ素剤を配布します。避難ルートに面した公共施設で原則、医師が関与して配布します。**

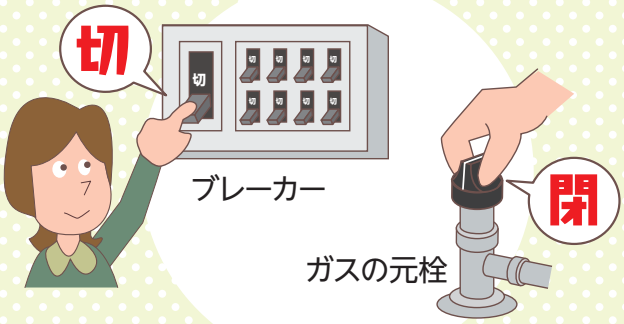
上記のことについては付属の**避難マップ**を参照して、それぞれの地域の避難先、ルートなどを確認しておきましょう。

災害が発生したとき、家族が一緒にいるとは限りません。避難の情報をどのように入手するか、家族の安否確認や連絡方法なども確認しておきましょう。

避難をするとき

- **素肌を露出しないようマスク、長袖の上着、長ズボンなどを着用しましょう。**
- **避難の際に持ち出す物の備えを日頃から家族で確認し、準備しておきましょう。**
- **電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。**
- **隣近所に声をかけ助け合いましょう。**



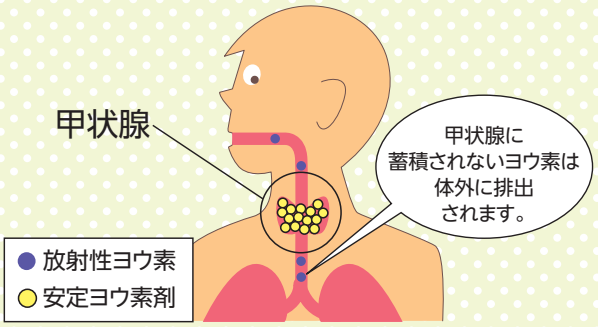


安定ヨウ素剤の配布

安定ヨウ素剤は、原子力災害時に放射性ヨウ素による甲状腺被ばくを防ぐため、予防的に服用する医療用医薬品です。

ヨウ素はのどの下にある甲状腺に集まる性質があります。放射性ヨウ素がたくさん集まると体に影響を与えることになります。そこであらかじめ安定ヨウ素剤を服用することで、放射性ヨウ素が集まりにくくなり体への被害を小さくすることができます。町では安定ヨウ素剤を備蓄しており、避難ルートに面した施設で配布します。

あらかじめ安定ヨウ素剤を服用することで、後から入ってきた放射性ヨウ素の蓄積量を減らすことが可能です。



安定ヨウ素剤は、年齢によって飲む量が決まっています。

- 3歳未満・・・・・ゼリー剤
- 3～12歳・・・・・丸剤1錠
- 13歳以上・・・・丸剤2錠

安定ヨウ素剤

実寸大

丸剤

写真提供：日医工㈱

ゼリー剤

写真提供：日医工㈱

＊ごくまれに安定ヨウ素剤を飲んで副作用が出る場合があります。副作用が出た場合は、しばらく安静にし、ひどい場合は医師の診察を受けてください。

安定ヨウ素剤の備蓄場所	
若狭町役場三方庁舎	若狭町中央 1-1
若狭町役場上中庁舎	若狭町市場 20-18
二州健康福祉センター	敦賀市開町 6-5
若狭健康福祉センター	小浜市四谷町 3-10

安定ヨウ素剤の配布候補場所	
若狭町役場三方庁舎	若狭町中央 1-1
若狭町役場上中庁舎	若狭町市場 20-18
若狭町地域福祉センター「泉」	若狭町井崎 40-80
若狭町野木公民館	若狭町兼田 1-29

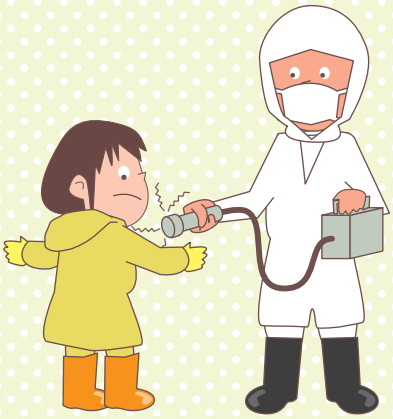
スクリーニングと除染

「スクリーニング」とは、放射性物質が体や衣服、携行品などに付いていないかを放射線測定器で検査することです。

避難者本人の健康管理と放射性物質が避難先などへ運ばれるのを防ぐ役割もあります。

もし汚染されていた場合は、衣類を着替える、シャワーを浴びる、拭き取るなど放射性物質を落とす作業をします。これを「除染」といいます。

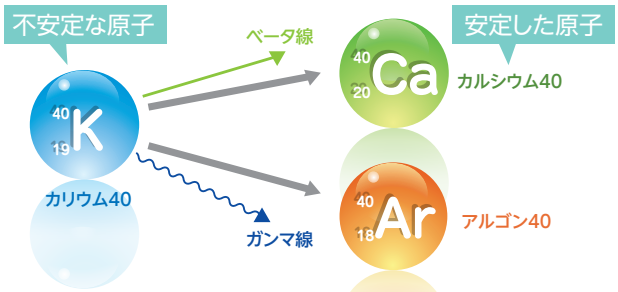
また、専門的な医療が必要な人については、指定された医療機関へ搬送します。



放射線の基礎知識

放射線と放射性物質の違い

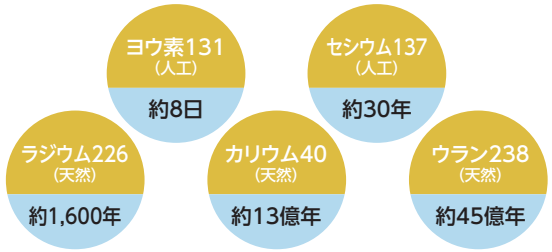
地球にあるすべてのものは「原子」からできています。原子の中には不安定な状態で存在しているものがあり、安定した状態(別の原子)になろうとしてエネルギーを出します。このときのエネルギーが「放射線」で、放射線を出す物質を「放射性物質」といいます。また「放射性物質」が「放射線」を出す能力のことを「放射能」といいます。



放射性物質には、天然に存在するラジウム226やカリウム40、人工のヨウ素131、セシウム137などがあります。

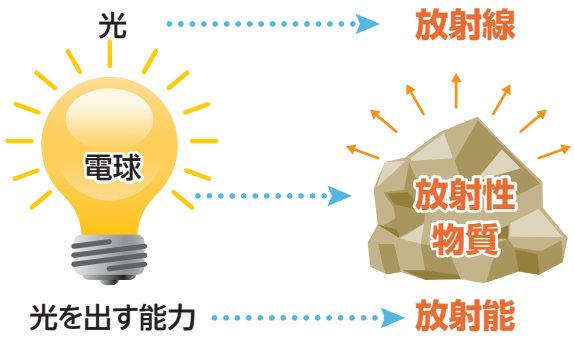
■放射能の半減期

(放射能の強さが半分に減るまでの期間)



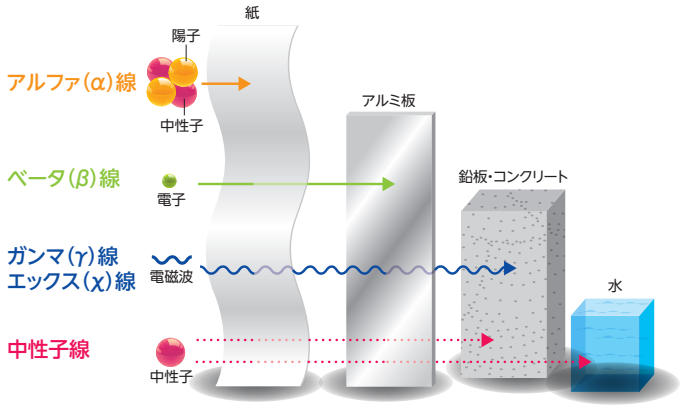
(人工)とは、もともと天然には存在しないもので、人工的につくられた放射性物質のこと。

■放射性物質を電球に例えると



放射線の種類と透過力の違い

放射線にはアルファ線、ベータ線、ガンマ線、エックス線、中性子線などの種類があり、それぞれ物を透過する力が違います。



放射線の量、放射能の強さを表す単位

●ベクレル(Bq)　放射能(放射性物質が放射線を出す能力)の強さを表します。例えば「野菜1kgあたり〇〇ベクレルの放射能が含まれている」という言い方をします。

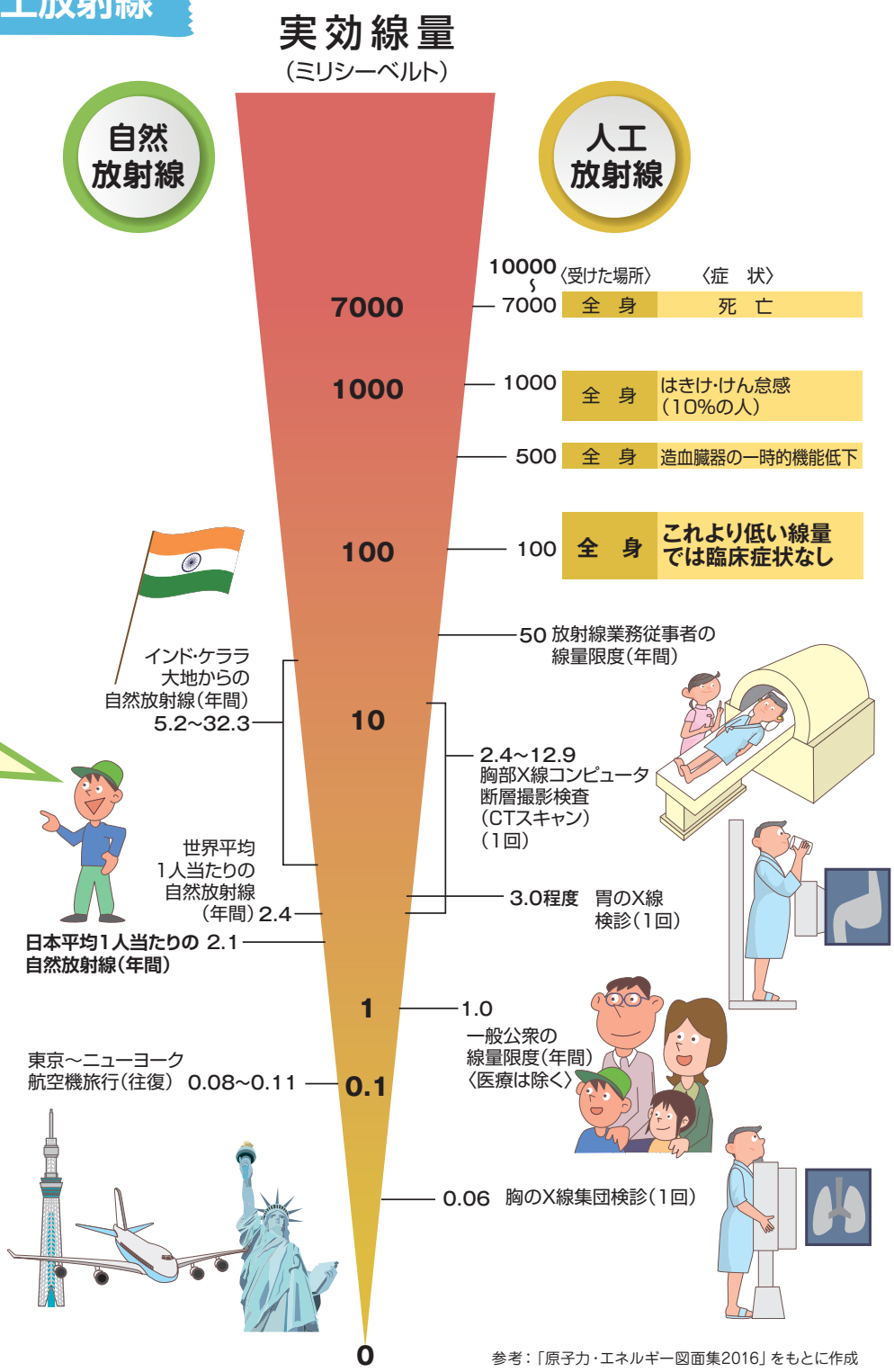
●グレイ(Gy)　放射線が物質に当たったときに物質が吸収するエネルギー量を表します。例えば「モニタリングポストの空間放射線量は〇〇グレイです」という言い方をします。

●シーベルト(Sv)　放射線が人体に与える影響の大きさを表します。例えば「1時間当たり〇〇シーベルトの放射線を被ばくした」という言い方をします。

これらの単位には、1/1000を表す「ミリ(m)」、その1/1000を表す「マイクロ(μ)」、さらにその1/1000を表す「ナノ(n)」が使われます。

自然放射線と人工放射線

私たちは毎日の生活の中で、いろいろな放射線を受けています。自然界には宇宙から飛んでくる宇宙線、大地や食物に含まれている放射性物質からの放射線があり、これらを自然放射線といいます。また、人工放射線として、レントゲン検査や胃の透視検査などで受ける医療用の放射線や原子力発電所の運転によって伴うものなどがあります。



参考：「原子力・エネルギー図面集2016」をもとに作成

放射線が人体に与える影響

私たちが日常生活で受ける放射線量よりはるかに多い放射線を受けると細胞を壊したり、細胞の働きを止めたりという障害が現れます。極端な場合は死に至ることもあります。受けた量が比較的少ない場合は、もともと体に備わっている修復機能が働いて回復します。おおむね100ミリシーベルト以下で障害が現れることは確認されていません。

避難マップは、このポケットに
差し込んで保管してください。

〈県外避難先〉

兵庫県
8市町への

- 三木市
- 篠山市
- 加東市
- 丹波市
- 西脇市
- 加西市
- 小野市
- 多可町

避難ルートと避難施設

〈県内避難先〉

越前町への避難ルートと避難施設

この冊子には、原子力災害発生時の心構えや、そのときに取るべき行動など、大切なことが書いてあります。必要なときに、すぐに取り出して読めるように、非常持ち出し袋などと一緒に保管しておいてください。

災害発生時には、あらゆる手段を使って、「事故の状況」・「事故への対応」・「今後の見通し」など、必要な事項を可能な限り迅速にお知らせしますので、町の指示に従って、慌てずに落ち着いて行動してください。

災害用伝言ダイヤルサービス 171（イナイ）番

「171番」は、NTTが災害発生時に行う「声の伝言板」サービスです。
災害時には、安否の問い合わせなどが増えて、電話がかかりにくくなりますので、普段から家族や親戚、友人たちと、いざというときには、お互いにこのサービスを利用し合うことを話し合っておきましょう。

●あらかじめ書き込んでおいてください。

	避難先（県内）	避難先（県外）
広域避難先	越　前　町	兵　庫　県
避 難 施 設		

●災害に備えて日頃から準備しておきましょう。

貴重品
現金、通帳、印鑑、健康保険証など

携帯電話等
携帯電話、携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、充電器など

水、非常食
水、缶詰、レトルト食品等の保存食など

衣類等
着替え、タオル、マスク、生理用品など

乳児用品
紙オムツ、粉ミルク、ほ乳びんなど

その他
眼鏡、補聴器、常備薬、救急用品など

家族の連絡先

名　前	生年月日	血液型	病気・薬	電話番号

若狭町　環境安全課 TEL 0770-45-9126　kankyoanzen@town.fukui-wakasa.lg.jp

■企画・制作／公益財団法人 福井原子力センター

2019年2月発行